

饗庭篁村 あはらば 小説家、劇評家。安政二年八月十五日江戸生れ、大正十一年六月二十日歿（八五—一九三二）。本名與三郎。別號南傳一、坐睡迂史、大阿居士、小梅饗庭、村のまうさく、根岸の隱居、河津金線、白雪山人、竹、竹のや、竹の家主人、竹の産のあるじ、竹の産の主人、竹の産主人、竹の舎、竹の舎のあるじ、竹の舎主人、竹印、與、巖貞、自道人、雀堂、饗庭生、饗庭篁村、龍泉居士等。明治七年自就社『讀賣新聞』入社、校止係を経て記者。二十二年『東京朝日新聞』に轉じた。所謂「根岸派」を主導、須藤南翠と共に「明治二十年前後の」文壇（幸田露伴）と曰ふ。劇評家として世評高く、江戸文藝研究でと先達の一人。

著書 『當世商人氣質』（明治十九年十月由村富次郎編刊、自由閣發行。再刊。二十一年九月二日金港堂）、『堀出しもの』（内題「堀出し物」明治二十一年五月二十九日古岡書籍店「新著白種」）、『川ぞし柳』（明治二十二年七月一日春陽堂）、『蓮葉娘』（明治二十二年七月一日春陽堂）、小説『むら竹』（第一卷・明治二十一年七月五日、第十四卷・二十二年二月二十一日、第十五卷・五月十八日、第十七卷・九月七日春陽堂）、聲撰『深山木—饗庭篁村著集・第二卷』（明治二十二年十一月二十日春陽堂）、『勝興』（明治二十二年四月二十三日春陽堂「新作十番」）、『國民小説』（合著、明治二十二年十月二十日民友社）、『小説むら竹・第五集（饗庭篁村著集「叢竹合卷」）』

（四版・明治二十四年一月五日春陽堂）、『風の糸自』（明治二十五年十月一日春陽堂）、『第三國民小説』（合著、明治二十六年六月一日民友



（四版・明治二十四年一月五日春陽堂）、『風の糸自』（明治二十五年十月一日春陽堂）、『第三國民小説』（合著、明治二十六年六月一日民友

社)、可有馬筆 (明治二十七年一月十九日春陽堂)、可きせめた (帳

中説法  
柳一附・拍劍子記「水野越前守本傳」 (明治二十八年七月二月

十五日春陽堂)、可しのり (明治二十年一月四日博文館「袖珍小

説」)、可列傳體小説史 (内題「世列傳體小説史」坪内逍遙 合著、

明治二十年五月十四日春陽堂)、可曲亭馬琴 (明治二十二年二月一

十八日博文館「少年讀本」)、可近松之研究 (合著・網島梁川 編、

明治二十二年十一月十五日春陽堂)、可青すたれ (合著、明治二十

四年一月二十九日春陽堂)、可旅視 (明治二十四年二月十四日博文

館)、可むら雀 (合著・物語 曲洋娘形氣) (紅葉山人合著、明治二十五年六月

十二日春陽堂)、可筆林子撰註 (明治二十五年六月二十二日東京專

門學校出版部「文學叢書」)、風來山人著「風流志道軒傳」附録風來

假名文選 (校訂、明治二十八年八月六日富山房「袖珍名著文庫」)、

柳亭種彦著「線手摺昔木偶」 (同、明治二十七年八月十九日富山房

「袖珍名著文庫」)、可不問語 (明治二十九年二月二十八日高有

倫堂)、紀行 文集「可天下泰平」 (明治二十九年八月二十日高有倫堂)、

可睡玉集 (合著・伊原青々園 後藤 宙外 編、明治二十九年九月十九日春陽堂)、

可竹影集 (明治二十九年十月二日高有倫堂。讓受再版。大正八年

十一月二十五日高有倫堂本店)、定延狂著「世間用心記」 (校訂、明治

四十年十一月二十五日富山房「名著文庫」)、可選取聲 (明治四十

二年二月十五日春陽堂)、可雀 躍 (明治四十一年四月二十日精華

書院)、山岡元隣著「他我身の上」 (校訂、明治四十三年十一月二十

八日富山房「袖珍名著文庫」)、可馬琴日記鈔 (編、明治四十四年

二月十五日文會堂書店)、可忠臣藏文庫 (校訂、明治四十五年七月

二百冊博文館「文藝叢書」）、  
「笠村叢書」(大正元年九月十日博文館「名家小説文庫」)、伴蒿蹊著「近世崎人傳」(校訂、大正元年十月十五日富山房「袖珍名著文庫」)、  
「<sup>趣味</sup>研究大江戶」(合著・江戸研究會編、大正二年十月二十四日大屋書房)、  
「<sup>世</sup>淨瑠璃名作集」(校訂、大正二年十一月一日博文館「文藝叢書」)、  
「竹の屋劇評集」(本間久雄校訂、昭和二年十月十日東京堂「明治文學名著全集」)、  
「<sup>世</sup>庭篁村集」(昭和二年八月十日春陽堂)、  
「竹の屋劇評」(三田村蒼蒼解題、昭和二十四年十月二十日朝日新聞社「朝日文庫」)等。